

日本医学教育学会誌『医学教育』編集・出版・ホームページ^{*1}庄司 進 ^{—*2}1. 日本医学教育学会機関誌『医学教育』の
2002～2005年の発展

1) 従来、第5号を大会記録号として年6号発刊していたが、第34巻(2003年)から大会予稿集を補冊とし年7号発刊となった(表1, 2).

2) 編集査読システムを迅速化し、原著論文・報告論文の分類を厳密にした。採択率は2002年投稿論文の97.6%から2004年投稿論文の70.0%に低下した(表3).

3) 2002年「モデル・コア・カリキュラムと共用試験」、2003年「地域での医学教育」、2004年「卒後臨床研修必修化後の専門医制度を考える」、2005年「臨床研修後の進路：研修必修化2年を経て」と「各国の医学教育」などのタイムリーな特集を編集してきた(表6).

4) 投稿規定を改訂し、第36巻(2005年)・第5号に発表し、2006年からの投稿に適應になる。

5) 学会創設時からの会長を長年務められ、その後名誉会長となられた牛場大蔵氏の追悼号を2004年に発刊した(表1, 2).

2. 日本医学教育学会の2003年以降の出版物

『医学医療教育用語辞典』と『診療参加型臨床実習ガイド クリニカルクラークシップ指導者のために』が日本医学教育学会から2003年以降に出版された(表4).

表1 『医学教育』第33～36巻の掲載論文・他の数

	33巻	34巻	35巻	36巻
原著論文	6	2	14	5
総説論文	0	2	2	0
報告論文	18	37	22	27
論壇	1	0	2	2
資料論文	1	0	0	1
翻訳	0	0	1	0
英文論文	0	0	1	1
学生のページ	1	1	0	3
機関会員のページ	0	1	5	11
てがみ	12	14	15	18
文献紹介	5	7	6	6
書評	8	12	8	9
イラスト・コラム	6	6	6	6
表紙解説	6	6	6	6
ニュース	12	8	10	8
アナウンスメント	29	22	19	18
学会レポート	19	21	19	30
追悼特集	0	2	3	0
追悼号	0	0	1	0
大会予稿集補冊	0	1	1	1
編集後記	6	6	7	6
合計発刊号数	6	7	8	7

表2 『医学教育』第33～36巻のページ数

	33巻	34巻	35巻	36巻
大会記録	141	0	0	0
大会予稿集補冊	0	78	81	86
追悼特集	0	2	7	0
追悼号	0	0	56	0
大会・追悼以外	357	430	429	432
総ページ	498	510	573	518

^{*1} Japan Society for Medical Education “Medical Education (Japan)” Editing・Publication・The Home Page
キーワード：『医学教育』, 出版, ホームページ

^{*2} Shin'ichi SHOJI 第14期編集・出版・HP委員会委員長, 城西病院病院長代行(副院長), 筑波大学名誉教授

3. 日本医学教育学会ホームページの2002
～2005年の発展

2001年4月に公開した日本医学教育学会のホームページが発展してきた(表5).

表3 『医学教育』誌投稿論文 受付論文数および採択率 (2000~2005年)

2005年12月31日現在

	受付	採否確定数…①	採用…②	不採用…③	不採用論文中、審査以外によるもの*…④	採択率 (②/①)	採択率 {②/(①-④)}
2000年	50	50	36	14	10	72.0%	90.0%
2001年	43	43	32	11	7	74.4%	88.9%
2002年	51	51	41	10	9	80.4%	97.6%
2003年	62	62	42	20	11	67.7%	82.4%
2004年	41	41	28	13	1	68.3%	70.0%
2005年	38	22	15	7	1	68.2%	71.4%

* 投稿者による取り下げと、再投稿期限超過による受付解消

表4 日本医学教育学会出版物一覧 (2003年以降)

医学医療教育用語辞典
 日本医学教育学会医学医療教育用語辞典編集委員会
 編 照林社 2003/07
 診療参加型臨床実習ガイド
 クリニカル・クラークシップ指導者のために
 日本医学教育学会卒前臨床教育
 委員会 編 篠原出版新社 2005/07

学会ホームページのアドレスは、<http://jsme.umin.ac.jp/>である。

学会事務担当の学会支援機構のE-mailのアドレスは、jsme@asas.or.jpで、事務的な学会への問い合わせを受け付けている。

学会広報のE-mailのアドレスは、jsme-kouho@umin.ac.jpで、各種の非事務的な問い合わせや医学教育Q&Aの受付などを行っている。本E-mailは編集・出版・HP委員会のHP担当委員が対応している。

ホームページのメニューは、トップ・更新情報、ニュース、学会概要(学会の事業目的と沿革、事業内容、事業計画、会員数、役員、お問合せ先、会則、入会申し込み)、雑誌『医学教育』(論文と抄録、アーカイブス、投稿規程など)、アウンスメント、図書・文献資料、医学教育Q&

表5 日本医学教育学会ホームページの発展

2001/04 日本医学教育学会ホームページを公開

主な掲載内容:

- 学会概要
事業目的と沿革
事業内容
年度事業計画
会員数
役員名簿
- 『医学教育』の論文抄録
- 委員会からの特集記事の全文
- ニュース
- アウンスメント
- 医学教育学会大会ページへのリンク
- リンク集
- その他、タイムリーな情報の提供

2001/08/01 日本医学教育学会宛E-mailアドレスを作成

2001/11/13 日本学術会議のサイトと相互リンク

2002/11/29 『医学教育Q&A』のコーナーを追加

2004/10/17 機関会員・賛助会員ページを追加

2005/07/09 図書・文献資料ページを追加

2005/08/09 インターネットから入会申込の受付開始

2005/10/17 投稿規定を掲載(2006年1月改訂版)

2005/10/17 「医学教育ユニットの会」のページを追加

2005/11/25 学会会則のページを追加

A, 機関会員・賛助会員、リンク、問い合わせ、などである。

表6 『医学教育』第33～36巻 巻頭言, 特集, 医学英語シリーズ

1. 巻頭言 (第33～36巻・第1号)

現代社会における医学教育のあり方 片桐 敬
 医学教育におけるパラダイムの転換 杉森 甫
 医学教育と芸 相良祐輔
 明治新政府はなぜドイツ医学を選んだのか. 加我君孝

2. 特集

1) モデル・コア・カリキュラムと共用試験 (第33巻・第2号)

わが国での医学教育改革の潮流 堀 原一
 モデル・コア・カリキュラムとは 阿部好文
 臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム—CBT と OSCE— 福島 統
 臨床実習開始前と終了時の客観的臨床能力試験 大野良三
 症候・病態をテーマにするテュートリアル教育 吉岡俊正
 筑波大学医学専門学群の臨床実習の試みと臨床実習のコア化の問題点 庄司進一

2) 大学外卒前医学教育: 地域での医学教育 Community-Based Medical Education (第34巻・第3号)

座談会
 卒前医学教育の場としての大学附属病院 中村 忍
 卒前医学教育の場としての地域病院 松村理司
 卒前医学教育の場としての診療所実習について 白浜雅司
 大学外卒前医学教育の場としての地域医療実習 岡山雅信・他
 卒前医学教育の場としての健康福祉のまちづくり (Healthy Cities Communities) 山根洋右・他

3) 卒後臨床研修必修化後の専門医制度を考える (第35巻・第3号)

座談会
 臨床研修必修化に到る経緯と今後期待される専門医について 矢崎義雄
 わが国の専門医認定制度の現状 酒井 紀
 臨床研修必修化と内科系認定医・専門医制度のかかわり 渡辺 毅
 卒後臨床研修必修化と外科専門医制度のかかわり 山崎洋次・他
 日本医師会が考える生涯教育のあり方 櫻井秀也

4) 平成16年度「特色ある大学教育支援プログラム」(第36巻・第1号)

5) 平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(第36巻・第2号)

6) 臨床研修後の進路: 研修必修化2年を経て (第36巻・第5号)

大学付属病院での後期専門医研修 堀江孝至
 国立病院機構が提案する後期研修 矢崎義雄
 市中病院での後期研修—安城更生病院における後期研修— 山本昌弘・他
 家庭医療レジデンス・トレーニング・プログラム 葛西龍樹
 公衆衛生分野への進路 拜野貴之・他
 基礎医学研究者への進路 松尾 理・他
 臨床系大学院の考え方 高倉公朋

7) 各国の医学教育 (第36巻・第6号)

変貌をとげる韓国の医学教育 吉田一郎
 マレーシアの医学教育 大西弘高
 アフガニスタンにおける医学教育の再構築 水嶋春朔・他
 英国の卒前医学教育: 日本との比較—実践による職業教育と大学: 実習の質と量の圧倒的な差— 渡辺修一
 フランスの医学教育 岡田正人
 ドイツの医師国家試験と卒前医学教育 岡嶋道夫
 多様なカリキュラムを提供する北米のメディカルスクールの医学教育カリキュラム 森田孝夫・他
 ケース・ウエスタン・リザーブ大学医学部臨床教育体験記 武藤順子・他

3. 医学英語シリーズ (第33巻・第1号～第34巻・第4号)

医学部2年生を対象としたある医学英語教育の試み 牧 純
 Medical Vocabulary の構築が専門性への第一関門 横田眞二
 医学部一般教育の英語教育について 瀬谷幸男
 卒前から卒後まで連続した英語教育を 鈴木 衛
 国際医学情報センターの役割と必要性 J. バトリック・パロン・他
 医師に必要な実践的英語の修得のために 勝村俊仁
 英文構築にも役立つ実学的な英語教授法を (1) 日本語への繊細な感受性こそ英語上達への出発点: 和魂洋才のすすめ, (2) 能動態か受動態かその背景 小西友義
 論文を誤解されない英文で書くために—模倣こそ心底からの賞賛である— 小西友義